道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

2018年に手かけてくれたTW200。サイドカバーには、こっそりと「単車道」のサインあり。まさにそんな伊東さんの生涯でした♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

初雪が降り、今朝の気温はマイナス5℃。そろそろバイクを冬眠させる人も多くなる信州ですが、いつも太陽のように温かかった大切な仲間が一人、永い眠りにつきました。病気と無縁だった70歳の伊東省一さん（安曇野市）が急性骨髄性白血病と診断されたのは、今年5月。その直前まで松本にある私のカフェに頻繁に顔を出してくれていたので、全く信じられませんでした。治療の合間の一時帰宅には何度も押しかけたし、最後は骨髄移植で治るのだと家族も仲間も信じて疑わなかったのですが、秋から数値が急降下。骨髄移植予定が決まっていたものの、11月20日に帰らぬ人となりました。

彼は、2018年の8月号で紹介した旧車再生に長けた「レジェンド伊東」さん。オフロードバイクを蘇らせてくれたお陰で、コースや林道も何度もご一緒しました。20代の頃には小排気量モトクロスのチャンピオンに輝いたことがある技量の持ち主で、35年ぶりに走ったコースでは、かつての「鬼の伊東」が蘇り、一日中グルグル走り回っていました。後日行われたカブの耐久レースでは、ベテラン勢を抑えてあっさり優勝。それからは、オンにオフにと仲間でのツーリングを楽しんでいました。

何でも直してしまう魔法の腕を称して「レジェンド」と呼んでいた15歳年下の奥さん（千砂さん）は、婚約時代に最後のモトクロスレースを一度見ただけだったので、本当にカッコいいなと思ったそうです。千砂さん曰く、還暦を迎える頃に「もう大型バイク無理かも」と弱気だったのに、2016年からカフェに行くようになると、一転。メグロやマッハⅢたちに再び跨り、レースにツーリングにと精力的に走るようになったそうです。何しろカフェでは、注目の的。女子も若者も高齢者も興味津々で、操る伊東さんは本当に輝いていました。独自のオシャレ感覚もイカしていました。母のネッカチーフを首に巻いたり、豹柄のシートカバーを旧車につけたり、どんなジャケットも必ず一捻りして着用。似合っていたし、見ているこっちも楽しくなり、伊東さんの周りにはいつも笑顔がありました。

とにかく旧車が大好きで、よその家の片隅の放ってある気になる旧車を見かけると、必ず持ち主に声を掛けていました。そんな中には名車も多く、半年も名義変更にかかったという1967年製のスズキスクランブラーTC250は、バイク界では知らない人はいない鉄人カソリ（世界を旅する賀曽利隆さん）が初めてアフリカを旅した時のバイクと同型。それがご縁で賀曽利さんの人生がドラマ化されたTV「笑コラ」では、伊東さんのTCが使用されることになりました。ツーショットはたぶん3本指に入る嬉しい出来事だったはずです。

懐っこい笑顔で側にいて、いつも独特の冗談で笑わせてくれた伊東さん。仲間に「礼子さんにとって伊東さんは特別な存在だったんだね」と言われました

大型女子ライダーからかつて中京でコメット号を作っていた技術者（安井さん）まで喰い入るように見ている伊東さんのレアバイク。

大島のロケでも絶好調だったTC250。鉄人カソリさんも感動しきりだった。伊東さん人生最良の日。2019年2月。

35年前のウエアで2位に一周の差をつけて優勝したカブ杯。葬儀で初めて見た当時のアルバムの表紙には「モトクロスに賭けた青春」とあった。

10台以上の旧車とパーツやグッズが整理整頓されており、誰をも魅了した伊東ガレージ。最後の自宅療養では2日間で全てのバイクのエンジンをかけ、一台のキャブを分解。バイクやパーツには誰もが分かるようにメモを書いていたという。

写真：高井智章
サイドカー、オフ車、外車、スクーター。年齢も様々で彼の懐の広さが分かる仲間とのラストツーリング。雪予報が外れて季節外れのポカポカ陽気だった。

が、改めて不思議なご縁だったと思います。

「もう数日かも」と言われ、慌てて夫と病院に駆けつけると、容体が急変。愛してやまない一人娘の彼の父親も隊のAさんとNさんも華ジャンで参列という。「じゃあ私もバイクで行く。葬祭場から火葬場まで一緒に走ろうかな。」と言うと、なんと19台ものバイクが集まってくれました。「絶対に復活して、みんなと走る」と何度も明言していた伊東さん、絶対に喜んでくれるはず。葬儀は、それぞれのお別れの言葉のあと、全員で記念撮影（初体験）となりました。千砂さんが「ピースしよう」と言うと、Aさんが「彼が教えてくれた昔のヤエー！でいきましょう」と提案し、全員で省ちゃんポーズ（あり得ない）。ラストツーリングでは、先頭をゆく霊柩車の千砂さん、彼のヘルメットを抱えて窓を開けてくれていたそうです。涙止まらないけれど、なぜか笑顔もいっぱいの素敵な時間でした。

やりたいことを淡々とやり、決して文句や人の悪口は言わず、相談ごとには真剣に耳を傾けて意見してくれた伊東さん。夫は「作為とか騙すとかなく、お腹が真っ白。彼はみんなに愛されるようなことを積み重ねて生きてきたからね」と言います。そんな彼が枕元に置いてくれていた「じっくり治して早く帰ってこ～い！」という私のサイン入りTシャツは、彼の旅立ちの一部となりました。縁とは何なのでしょう。ひとつ言えるのは、こんな素晴らしい送り出しをしてもらえるような日々を過ごさなきゃねと言うこと。12月で67歳になります。これまで多くの葬儀に参列してきましたが、価値観を覆されるような素敵な別れ方に、「生き方」を教えて戴きました。伊東さん、最後までありがとね♪

全国で最も早い「マラソン大会」

九州の散歩道

フリージャーナリスト　湯浅玲子

南国のイメージが強い九州でも、とりわけ早く季節がめぐって来るのが鹿児島の薩摩半島最南端にある指宿（いぶすき）です。東シナ海に臨む風光明媚な場所で、暖流の影響で年間平均気温約18℃の亜熱帯気候。豊富な温泉が湧き、世界的にもめずらしい海岸で楽しむ「砂むし温泉」で知られています。

そんな指宿で毎年1月に行われる「いぶすき菜の花マラソン」は、公認コースを使用したマラソン大会としては1年で一番早く開催される市民マラソンです。40回を超える歴史ある大会で、2025年は1月12日に開催されます。

この大会は市民の温かいもてなしが特徴です。沿道では地元住民が特産品のさつまいもや鰹の腹皮などをふるまい、ゴールでも温かいうどんやそば、ぜんざいなどが用意されています。太鼓やバンド演奏などのユニークな応援もくり広げられます。マラソンの制限時間は8時間と長めなので、初心者でも参加しやすく人気があります。

さらに魅力的なのがコース設定です。指宿市内をぐるりと一周するコースは、九州最大の湖である池田湖、「薩摩富士」という別名もある美しい姿の開聞岳、東シナ海を眺めながらの海沿いのコースなど、指宿の主な観光名所をめぐるコースとなっています。全国に先駆けて満開となった葉の花が、沿道を黄色いじゅうたんのように埋めつくし、一足早い春の訪れを感じることができます。

この菜の花は、前年10月半ばから多くの市民がボランティアで植栽したもの。もともと指宿では食用・菜種油用の菜の花の栽培が盛んでしたが、従来の品種は背が小さくて一週間ほどしか花が持たないため、鹿児島大学などと協力して5年の歳月をかけて品種改良しました。今では毎年見事な花を咲かせてランナーを迎えています。

誰でも参加できるマラソン大会をコンセプトにしているので、フルマラソンのほかに約12キロのファンランニングも設定されています。フルマラソンの参加者もタイムを競うというより、特産品を味わったり、応援の人々に手を振ったり、楽しみながら参加している人が目につきます。

ゴール後は「砂むし温泉」で疲れを癒すこともできます。筋肉疲労や擦り傷に効くそうなのでマラソン後にはぴったりですね。参加者も地元住民も笑顔の「いぶすき菜の花マラソン」。リピーターが多いというのも納得です。

写真協力：鹿児島県観光連盟
遠くに開聞岳を臨む菜の花畑

写真協力：鹿児島県南薩地域振興局
沿道でたくさんの市民が応援

道路交通情報

◇道路緊急ダイヤル　#9910
◇NEXCO東日本　http://www.e-nexco.co.jp/
◇NEXCO中日本　http://www.c-nexco.co.jp/
◇NEXCO西日本　http://www.w-nexco.co.jp/
◇首都高速　http://www.shutoko.jp/
◇阪神高速　http://www.hanshin-exp.co.jp/
◇本四高速　http://www.jb-honshi.co.jp/
◇日本道路交通情報センター　http://www.jartic.or.jp/

道路ニュースの宛名変更・発送停止について

○宛名変更：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《変更後の住所》、《「社名」または「氏名」》、《宛名変更》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。
○発送停止：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《「社名」または「氏名」》、《発送停止》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

【宛名記載例】
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-3-1　尚友会館6F
全国道路利用者会議　様
No.0000　または　**U-00000**　1部

FAX　03-3501-5612
E-mail　the_road_news@road-jhuc.jp